

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202148
法人名	医療法人財団百葉の会
事業所名	グループホーム みずあおい
所在地 (電話番号)	〒420-0961 静岡市葵区北1892-8 Tel 054-248-1117・248-1082 FAX 054-248-1083
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(平成19年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 13 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 15.4

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年1月 16日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山内科小児科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡市郊外の山あいにて建てられたデイサービスセンターと併設されたグループホームである。近くを第二東名が通ることになっているが、騒音はほとんど気にならない位置にあり、落ち着いた静けさを感じられる。また、ホームを訪れる全ての人達が心穏やかに幸福に暮らせるための居場所として、近くの遊水池に生息する「みずあおい」の水草(葉がハート型をして艶があり青紫の美しい花が咲く。)をホームの名として採用し、管理者及びスタッフ一同、「その人が生きてこられた人生を尊重し、その人らしく、当たり前の暮らしを送っていただける。」ことを目標にして、家族のように常に寄り添ったケアを行っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題はほとんどが改善されていたが、地域との接点においてその難しさからか地域との連携は十分できていないとは言えず、今後の課題として地域に対する積極的なアプローチが望まれる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の意義は理解しており、今回の自己評価は全員での取り組みがみられたが、前回の外部評価では一部「地域との関係」に苦慮している面が伺える。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議で取り上げられた事項は、事業所内だけでなく法人グループ内にも情報提供をしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等に対し、毎月定期的に近況と金銭報告とともにレシートを郵送している。また、家族等の面会時においても近況等を話して意思疎通を図っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、自治会等への加入もなく、地域とのつながりは十分とは言えない。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	湖山医療福祉グループの理念を掲げており、「みずあおい」としての独自の理念が作られていない。	○	母体組織の理念そのままではなく、地域密着型サービスとして何が大切かを事業所で考え、これまでの理念に加えて、地域との結びつきやホームの役割等を目指した理念が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員間での話し合いの機会は十分とは言えない。	○	日々のサービスの提供においては良好な面が見受けられるので、具体的に理念をどうすべきかを管理者、職員全員で話し合いの機会を設けられることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会等への加入もなく、地域とのつながりは十分とは言えない。	○	地域との結びつきを図る上で、近所に住んでいる職員に仲介をお願いしたり、ディサービスと共同してホームでの行事への招待、リサイクル活動や町内会行事への参加、また、町内会等への加入等についての接点を持つ努力が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義は理解しており、今回の自己評価は全員での取り組みがみられたが、前回の外部評価では一部「地域との関係」に苦慮している面が伺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議で取り上げられた事項は、事業所内だけでなく法人グループ内にも情報を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市(区)の担当者とは運営推進会議以外では行き来がなく、書類等の提出は郵送に頼っている。	○	市町村は、介護保険者としては勿論、市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として、事業の推進においては大変重要な存在であるので、提出書類等は郵送に頼ることなく、積極的に行き来することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等に対し、毎月定期的に近況と金銭報告するとともに買い物レシートを郵送している。また、家族等の面会時においても近況等を話して意思疎通を図っている。		
	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、家族等からの意見を聴取する態勢であり、また、毎年6月には家族会を開催して家族等からの意見を聞く機会を設け運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ、法人グループ内の異動であるが、引継ぎ期間内には利用者との関係が蜜になるよう最善の努力をして、利用者のダメージを少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内において各種研修が行われ参加の機会が与えられている。また、リーダークラスを育てるための研修も行われているなど、人材育成には力が注がれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内における管理者の交流はあるが、近隣の他の同業者との交流は行われていない。	○	市町村の協力を求めながら、職員を含めて近隣同業者との交流を積極的に手がけられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームの環境に慣れるまで家族のもとに外泊をさせたり、外食を楽しむなど無理のないケアにより、徐々にホームの雰囲気に馴染むような支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と喜怒哀楽を分かち合うように心がけており、年長者である利用者からも生活の知恵や料理の味付けなど利用者の得意とするものを授かったりして、身近に信頼しあえる関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や関わりの中、職員との会話により利用者の意思や思いを聞き出している。介護度が高く意思表示が困難な利用者からも声のトーンや顔つきで意思を汲み取る心遣いをするなど、思いを尊重し利用者の立場になって考えるケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りや担当者会議で職員の気づきを話し合い、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の問題点や状況変化に即して介護計画を見直している。特に入居直後の利用者には留意し、心身の状態が安定するまでは1ヶ月・3ヶ月と見直し期間を短く設定し、実情に応じたきめ細やかなケアが出来るよう対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスで行われている機能訓練や予防体操・レクリエーションなどに参加している。外出や外泊・面会家族に昼食を提供するなど、臨機応変な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人や家族の希望により入所前のかかりつけ医へ家族の付き添いで受診できる。体調に変化があった場合は看護職員に相談し、必要な治療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期における事業所の方針を説明している。本人・家族の希望と利用者の病状を考慮し、医師や看護職員などと早い時期からの状況変化に応じた対応をしたいと考えているが、現在はかかりつけ医との話し合いがされていない。	○	平素からかかりつけ医との話し合いもされたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損なわない言葉かけや対応について繰り返し確認をとり、職員への徹底を図っている。個人情報は施錠出来る所に保管しプライバシー保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者希望の時間帯での入浴や、職員が見守る中喫煙・飲酒を楽しむなど、一人ひとりの意向や希望に合わせた生活支援に取り組んでいる。携帯電話の持込をして家族と自由に連絡を取る利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が共に力を合わせて食事の支度や片付けをするように配慮している。持てる力を活かして生き生きと片付けや食器洗いを手伝う利用者の姿が見られた。時には回転寿司など外での食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴できる。入浴時間も午前中・午後・夜と利用者は好きな時間帯に入浴することができる。職員は利用者の希望や体調に留意しながら清潔を保つよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かして、食事・洗濯・花の水遣り・ゴミ出しなど、それぞれの力量に合わせた活動をしている。職員と共にランチョンマットや雑巾を作ったり、併設のデイサービスに参加したり、利用者が楽しみながら活動できる働きかけをしている。デイサービスの習字の先生として活躍する利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩の他、季節の花見やお祭り・ドライブ・外食など、利用者の希望や健康状態・天候に配慮しながら外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより鍵を掛けない生活を実践している。安全面に配慮しながら自由な暮らしが出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「GHみずあおい消防計画」に則り、年2回昼夜を想定した避難訓練を利用者と共に行っている。	○	地域住民の協力を得られるような働きかけをすると共に、消防署の協力を得て避難経路や避難経路の確認をするなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が週2回食事を担当し献立のチェックをして、栄養バランスや調理方法など専門的な観点からの確認をしている。食事や水分の摂取量に留意し、おやつやゼリーなどで補う配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは広く明るく落ち着いた造りになっており、安全に自立した生活が送れるよう配慮されている。利用者は食卓テーブルやソファ・畳など思い思いの場所でくつろぎ、温かな日差しの中日向ぼっこをしながらまどろむ利用者が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、居心地よく生活できるように配慮されている。利用者は家族の写真や趣味の物を飾り、その人らしい居室づくりをしている。		